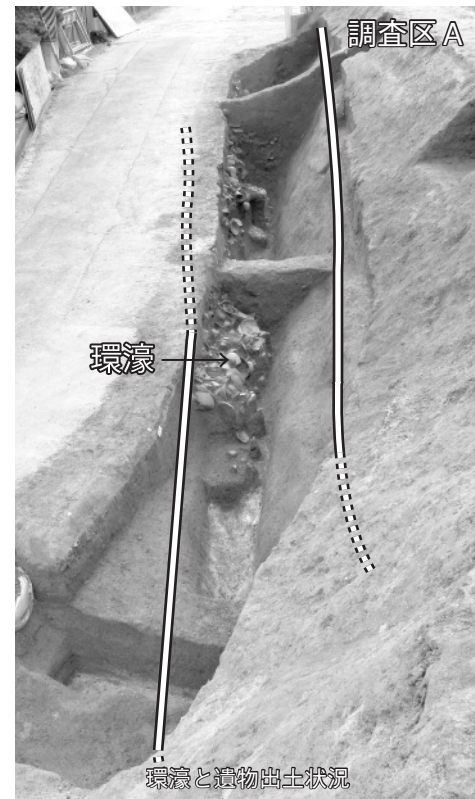
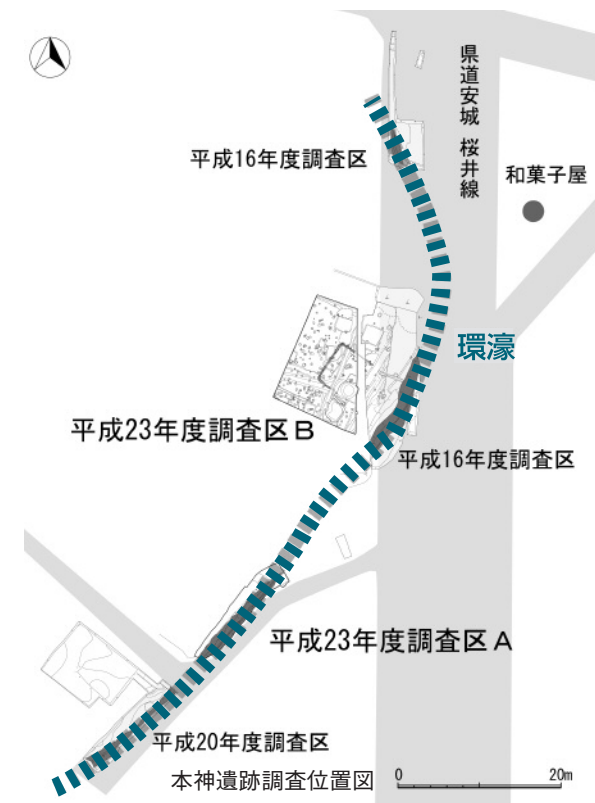


問▶文化財課(☎77)4477)



なります。建物の壁周りには、浅い溝(壁溝)がくつきりと巡っているのが分かります。住居は、比較的環濠に近い場所にあり、集落の中心部分から外れていますが、東側に広がる鹿乗川流域遺跡群と二子古墳を見渡せる立地条件の良いところにあります。平成20年度の調査でも竪穴住居



跡を4棟ほど確認。今回の調査を含め弥生時代の環濠と集落の一端が少しずつ明らかになってきました。※環濠↓朝鮮半島から米作りとともに伝わったとされる溝。溝は東西方向と南北方向に十字に交差しています。これは絵図には描かれていない区画溝と考えられます。掘立柱建物の柱穴が多いことも、戦国時代の寺内において区画溝を伴った屋敷地空間が存在していたと推定さ

れます。これまでの調査で、外堀の築かれた時期が、戦国時代の三河一向一揆の頃までさかのぼることが分かってきました。今回の調査により、江戸時代の絵図に描かれていない戦国時代の本證寺寺内における人々の生活が明らかになったことは、歴史復元の第一歩となることでしょう。



設などを確認。戦国時代の遺構からは素焼きの鍋や羽付釜(外側に竈にひっかけるための鐔がつく釜)が出土しました。溝は東西方向と南北方向に十字に交差しています。これは絵図には描かれていない区画溝と考えられます。掘立柱建物の柱穴が多いことも、戦国時代の寺内において区画溝を伴った屋敷地空間が存在していたと推定さ

れます。これまでの調査で、外堀の築かれた時期が、戦国時代の三河一向一揆の頃までさかのぼることが分かってきました。今回の調査により、江戸時代の絵図に描かれていない戦国時代の本證寺寺内における人々の生活が明らかになったことは、歴史復元の第一歩となることでしょう。



地下に眠る歴史―安城の遺跡―

安城市には、250カ所を超える遺跡が確認されています。今回、埋蔵文化財センターで実施した平成23年度の発掘調査27件のうち2件を紹介します。

■本證寺境内地(野寺町)

三河三か寺の一つである本證寺は、鎌倉時代後期に開かれた西三河地方の中心的真宗寺院です。境内地の周囲には、土塁や二重の堀が巡っています。戦国時代の城のようにみえることから、城郭伽藍または城郭寺院と呼ばれ、県指定史跡にもなっています。

今回の調査は、江戸時代に残された本證寺の絵図に記されている、「百姓家」の範囲を調べました。調査の結果、戦国時代から明治時代の建物の柱穴や木杭、溝、鉄製品の加工に関連したと推定される土坑(炭がつかまった穴。火に空気を送るためのファイゴの羽口片が出土)、水まわり施

■本神遺跡(古井町)

碧海台地の東縁部に位置し、南・東側は堀内川により削られてきた低地に面しています。昭和39年に大量の土器が発見され、発掘調査をした遺跡です。ここには、弥生時代の集落を取り巻く村を囲む環濠(※)があり、平成16・20年度の調査でも確認しました。

今回の調査では、これまで想定されてきた環濠の続きとなる溝が見つかりました。環濠は、およそ1900年前に掘削されたもので、幅3m、深さ約2.5mの断面V字形となっています。この中からは、壺・甕(かめ)などさまざまな土器が出土しました。その中には、近畿地方のタタキ甕を手本にして作った在地の甕が含まれ、土器の交流という点からみて全国的に注目されます。また、台地上の集落(居住域)にあたる場所からは、同時期の竪穴住居を1棟発見しました。平成16年の調査結果とあわせると、平面は、一辺が5.5mの正方形に

遺跡の調査にご協力を

遺跡は、私たちの祖先が残したかけがえのない歴史です。一度壊されると、二度と元には戻りません。市では、開発でやむを得ず破壊される遺跡を、事前に発掘調査しています。周知の埋蔵文化財包蔵地内の開発工事をする時は、相談してください。皆さんのご協力をお願いします。

なお、今回紹介したものを、発掘調査で出土した遺物は、埋蔵文化財センターで保管・展示しています。展示品を紹介するパンフレットも無料で配布していますので、ぜひご覧ください。(市公式ウェブサイトにも掲載)

●展示日時 (火)～(日)午前9時～午後5時
※例の翌日、年末年始を除く。

